

令和6年度 第3回 宗谷管内学力保障会議

目的：宗谷管内の児童生徒の学力保障に向けて、市町村教育委員会、学校、教育局等が一体となって取り組むための目標や方策等について協議を行い、学力保障の取組の充実を図る。

開催日：令和7年2月20日（木）9:30～11:30

方法：Web会議システム（Zoom）

参加者：宗谷管内市町村教育委員会教育長、宗谷校長会、稚内市校長会、宗谷公立学校教頭会、稚内市公立学校教頭会、北海道高等学校長協会道北支部、E B E 協議会指定地域校、宗谷教育局

【挨拶】

宗谷教育局長 笠井 浩

多様な個性・特性を有する全ての子どもに着実に資質・能力を育成するためには、子ども一人一人の学習状況を正確に見取り、適切な指導や関わりを行うことが重要。子どもの言動だけではなく、考えていることや望んでいることなどの内面に迫る見取りが必要であり、このような授業改革による、子どもの興味・関心や理解度を高める取組を通して、子どもを主語にする教育を管内全体でより一層進めていきたいと考えている。

【説明・提案】

宗谷教育局教育支援課長 松浦 隆史

- ・宗谷管内学力保障プラン3つの柱の最終評価について
- ・令和7年度 学力保障プランについて

協議1 ○ 学力向上の取組の成果と課題について

〔主な意見〕

- ・3つの柱の取組については、どの教育委員会や学校も取り組んでいると思うが、調査の結果に表れていない。今の取組が効果的なものになっているのか、検証する必要がある。
- ・学校評価のアンケート等において、教職員と児童生徒の結果は概ね一致するが、保護者の結果とは乖離が見られる。児童生徒の居場所づくりや家庭学習の充実を含め、家庭との更なる連携が必要である。
- ・「子どもの学力向上『S（SOYA）サポート』』について、取組が形骸化しているように感じている。問題や取組の微調整が必要である。
- ・家庭学習の充実について、授業の中で児童生徒が自ら学ぶ姿勢を育むことが必要。また、授業において、丁寧で分かりやすい説明も大切ではあるが、児童生徒が少し物足りないと感じることで、意欲的な家庭学習につなげる方法も考えられる。

協議2 ○ 令和7年度 学力向上の推進方策について

〔主な意見〕

- ・学力向上に当たっては、授業改革の取組が肝要である。「よい授業」に向けた取組が推進するよう、各学校において授業交流を積極的に行ったり、授業づくりに係る、より具体的な資料を教育局が作成したりするなどの取組が必要である。
- ・学習に対する内発的動機付けを小学校段階から進めることが重要。児童生徒が「学ぶことが楽しい」と思えるような授業改革の取組が必要である。
- ・ICTについて、授業での活用は進んでいるが、次年度は児童生徒の深い学びにつながるような授業展開について、教育局から例示するなど、教職員一人一人の理解を促す必要がある。

まとめ

義務教育指導監 千代 隆志

- ・ここ数年、各市町村教委や学校、教育局が一体となって課題解決に向けた取組を推進できる体制が整備されてきており、子どもを主語とした教育活動の展開が可能になってきている。
- ・年度末のこの時期に、それぞれのお立場から、やり残していることはないか、児童生徒の姿を通して検証しながら、次のステップへと進んでいただきたい。

担当者から

児童生徒一人一人の可能性を最大限に引き出すためには、授業改革の取組を更に進めていくことが大切です。次年度は、校内研修の案を提示したり、オンライン研修「SOYA ALL」の充実を図ったりするなど、子どもを主語とした授業改革に向けた取組を進めたいと考えます。

（義務教育指導班主査 永野間 雅 博）